

有機農業技術のつぼ

作物名	トマト
対応技術の項目	施肥技術
	土壌・施肥改善法
	自家製育苗培土の改善

《情報収集先の経営概要等》
 当麻町 福山 憲昭 経験年数23年（うち有機年数23年）
 経営耕地面積 1.3 ha（全面有機）

トマト	1.3 ha
-----	--------

 労働力 家族2人
 有機JAS認定の取得状況 平成13年取得

問題点

育苗中と育苗後の苗の生育が安定しなかった



- 育苗培土の調製が難しかった。
 - ・ 初期生育の確保が困難であり、結果として生育が遅延するなどの課題があった。

対応

育苗培土の作成方法をレシピ化した つぼ



- 作成方法は次のとおり。
 - ・ 育苗培土の内訳（容積比）

・ 山土	100
・ 牛ふん堆肥	20
・ ピートモス	5
・ 自家製ぼかし肥料(※)	1
・ くん炭	5
 - ※ 自家製ぼかし肥料の内訳（重量比）

・ 魚かす	45
・ 大豆かす	40
・ 米ぬか	30
・ グアノリン酸	40
・ パームカリ	40
・ ピートモス	5
・ 木炭粒	2
・ 「健土ぼかし」	10
 - ・ 前年10月：上記に基づき育苗培土を作製し、ハウス内で保管する。（ビニールで被覆し、1か月間保温する）
 - ・ 2月上旬：ビニールで被覆し、再度保温する。
 - ・ 3月上旬：施肥を実施する。



改良された育苗培土によるトマト苗

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ 資材割合は正確に計り、十分に混和する。

成 果

育苗中及び育苗後の生育が安定した

- 苗の生育度合(※) 42% 増加

※ 草丈×茎径×全葉数（苗質試験結果より）

苗質試験結果（道南農業試験場調べ）

地区名	生産者名	草丈 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (第一花房下) (枚)	葉数 (全枚) (枚)	花数	開花数	草丈× 茎径× 全葉数	1株 生重 (g/株)	1株 乾物重 (g/株)	培土の 比重 (g/100ml)
当麻町	有機農家 7戸平均	20.6	6.5	6.7	7.8	4.9	0.1	1,070	22.6	2.6	61.6
	福山氏	22.4	7.6	7.2	8.8	5.4	0.2	1,518	31.8	3.7	58.7

注: 調査結果は1農家4~5株の平均値